



「情熱」と「粘り強さ」を持って頑張ろう (GRIT力を伸ばそう)

高校副校長 立木 英邦

6月上旬に県高総体、市中体が行われ、今年も熱い戦いが繰り広げられました。出場した各部の選手の皆さん、応援、裏方で支えてくれた文化部、生徒会の生徒諸君、大変お疲れ様でした。また、ご多用な中、応援に駆け付けていただいた保護者・同窓会の皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。私も県内、市内各地に赴き、本校生徒を応援しましたが、勝利を目指し懸命に戦う姿に多くの感動をいただきました。上位大会出場権を獲得した選手は、新たな目標に向けてしっかりと準備をして臨んでください。3年生で今回が最後の大会になった生徒は、これから切り替えて学習に集中していかなければならないと思います。特に、高校3年生は人生を大きく左右する進路実現を果たさなければなりません。

本校の多くの生徒が、学習と部活動の両立に励んでいます。学習も部活動も、「目標に向けて、日々努力を重ね、達成を図る。」という視点で考えると全く同じだと思います。学習も部活動も、取り組むうえでそれぞれの経験をうまく生かす意識をしっかりと持つことが重要です。

私は、小学校の頃からサッカーが大好きで、W杯は中1の時に開催された1978年アルゼンチン大会から、クラブW杯（前身はトヨタカップ）は1980年（初回大会）からずっと観てきました。特に、南米のサッカーが好きで、実力的に多少劣る南米のクラブが、スター軍団の欧州のクラブに、1試合の中で1、2回しかない得点のチャンスを確実に決めて守り勝つ試合を痺れながら観ていました。昨年のロシアW杯で、日本は3位になったベルギーと互角に戦いあわや勝てそうな試合をしましたが、当時の状況からは全く想像できないことで、「日本のサッカーも強くなったな。」としみじみ思っています。（女子は2011年W杯で優勝）

往年のスター（クライフ、ジーコ等）のプレーが放映されるときは欠かさずテレビにかじりついて、華麗なプレーに酔いしれていました。表面的には華やかに見える世界ですが、スタープレイヤーは、「見えないところで血のにじむような苦しい練習を重ね、かなりの時間をかけて面白くもない基本練習を繰り返し行っている。」という記事を当時の雑誌で読み共感していました。このことは、時代に限らず、他のスポーツ、あるいはスポーツの枠を超えたすべての分野でいえることだと思います。日本のバドミントンや卓球などは世界で勝てるような実力がついていますが、他の競技も含めてトップ選手は皆このような努力をしているのだらうと思っています。

2016年に、ペンシルベニア大学心理学教授アンジェラ・ダックワース氏の著書『GRIT やり抜く力』が発売され、ベストセラーになりました。GRIT（やり抜く力）は、「情熱」と「粘り強さ」という2つの要素から成っています。才能や知性が高いというよりもGRITが強い人が、世の中のいろいろな分野で成功を収めているということです。代表的な人として、イチロー氏（元メジャーリーガー）、長友佑都氏（プロサッカー選手）、本田宗一郎氏（本田技研工業・創業者）、山中伸弥氏（京都大学iPS細胞研究所所長・教授）等があげられます。このGRITは後天的に伸ばすことができる能力で、誰にでもその可能性はあるということです。

佐北生の皆さん、学習や部活動、学校行事に「情熱」と「粘り強さ」を持って取り組み、GRIT力を伸ばす努力をしてください。期待しています。

10月発行の八幡坂の歩みで、「GRIT」について、詳しく紹介したいと思います。

中学 スケッチ大会

美術科 五貫 研司

5月30日（木）にスケッチ大会を開催し、本中学全校生徒が参加しました。去年は曇り空で色が鈍く感じられましたが、今年は好天に恵まれ、生徒たちも制作に集中できていたように思います。

今年度は昨年と同様、1年生が八幡神社、2年生が本校敷地内、3年生が佐世保公園（ニミツパーク横）でスケッチを行いました。3年生は少し場所が離れているので、移動に時間がかかりましたが、それぞれが思い思いの場所で一生懸命元気にスケッチに取り組んでいました。今年度は例年に比べ、水彩画の技法を理解し、活用していた生徒が増えたように思います。美術は才能だけではありません。きちんと絵の仕組みと技法を理解することで、より、自分の思い描いている世界を描くことができますようになります。自分に自信を持って取り組んでほしいと思います。

今後は授業で仕上げを行う予定です。その後中学校の全職員による審査を行い、最優秀賞・優秀賞（各1名、金賞より選出）、金賞（各学年3名）、銀賞（同5名）、銅賞（同10名）を選出します。受賞作品は今年度の子ども県展に出品する予定です。



令和元年度 長崎県高校総体

保健体育科 大島 匡貴

5月31日（金）トランスコスモススタジアム陸上競技場で行われた開会式を皮切りに、6月1日（土）から4日（火）の4日間、令和元年度（第71回）高総体が開催されました。本校から282名の生徒が選手として出場しました。

総合開会式には、柏田教頭先生を団長に、陸上・空手道・柔道部の部員総勢56名が参加しました。テレビ放映をご覧になった方はご存じかと思いますが、佐北選手団の行進は県内でもトップレベルのものであったと思います。

選手として出場した生徒はもちろん、裏方として支えてくれた生徒会執行部、吹奏楽・写真・放送・新聞・書道など文化部の皆さん、各会場へ応援に駆けつけてくれた中高の先生方と生徒の皆さんと、学校がまさに一つとなる「チーム佐北」を体感することができたのではないかと思います。

結果、団体競技では空手道部の女子団体組手が2連覇を果たしたのをはじめ、同じく男子団体組手3位、男女バドミントン部が団体でベスト8となるなど好成績を収めました。

個人でも空手道部の3名がインターハイに出場するほか、陸上・水泳の生徒が上位大会にコマを進めています。上位大会での活躍を心より期待していますが、惜しくも敗退した部活動の生徒もこの経験を糧として、今後の学校生活に活かしてくれるものと思います。

72回生の皆さん、次なる目標は進路実現です。競技と同じで、基礎基本を大切に、練習試合（模試）で課題を見つけ、一つ一つやるべきことを整理しながら、必ずそれぞれの夢を叶えて下さい。「チーム佐北」みんなで応援しています。



<高総体 戦績>

男子空手道	団体組手 3位	男子水泳	1500m自由形 2位
	個人形 優勝・2位 インターハイ出場		400m自由形 2位・6位
	個人形 3位 九州大会出場		九州大会出場
女子空手道	個人組手 5位 九州大会出場	男子陸上競技	5000m競歩 2位
	団体組手 優勝 インターハイ出場		北九州大会出場
	個人形 2位 インターハイ出場	女子陸上競技	5000m競歩 優勝
女子バドミントン	個人形 3位 九州大会出場	女子剣道	個人 ベスト16
	個人組手 5位 九州大会出場	男子バドミントン	団体 ベスト8
	団体 ベスト8		
	個人シングルス ベスト16		

令和元年度 佐世保市中体

保健体育科 大石 絵里

6月8日(土)から6月10日(月)の3日間、佐世保市中学生体育大会が開催され(水泳競技は6月14日(金)開催)、本校からは135名参加しました。開会式では雨も上がり最適の天気の中、佐世保北中学校を代表し57名が市中体への意気込みが感じられる堂々とした北中らしい行進をしました。

どの種目でも生徒が最後まで諦めずに挑戦し、強い思いをもって臨んだ大会になりました。思うような結果が出せなかった生徒は、悔しい思いをしたと思います。カールルイス選手の言葉に「失敗したことの無い人間は成功することもない。たゆまざる挑戦が成功につながる」とあります。今回の大会の反省をしっかりと新しい目標を設定し、今後も目標を見失わずに、ひたむきに努力を重ねてほしいと思います。成功に近道はありません。

県大会に出場する男女テニス部、陸上部、男子バドミントン部、空手道部、新体操競技は、さらには個々のレベルを上げて、佐世保北中学校・佐世保市の代表として力を発揮してほしいと思います。「強いものが勝つのではない。勝ったものが強い」です。負けるという言葉をおぼれるくらい残りの時間を無駄にせず練習に取り組み、県大会という舞台でしっかり輝いてくれると信じています。今後の生徒の活躍をご期待ください。



＜市中体 戦績＞ ★は県大会出場競技

陸上競技	男子共通200m 1位 ★	水泳競技	男子共通200m自由形 1位 ★
	男子共通800m 3位 ★		男子共通200m個人ドレ 1位 ★
	男子2年200m 1位 ★		男子共通200m平泳ぎ 2位
	大会新記録		男子共通100m平泳ぎ 2位 ★
	女子共通100mH 1位 ★		男子共通400m個人ドレ 3位 ★
	女子1年4×100mR 3位		男子共通100mバタフライ 4位 ★
空手道	団体形 優勝 ★	男子バドミントン	団体 3位
	個人形 2位・3位 ★		ダブルス 3位 ★
新体操	個人 2位・3位 ★	男子バスケットボール	ベスト8
		女子バレーボール	ベスト8

＜6月下旬の主な行事予定＞

17日 【高校】 考査時間割発表	26日 【中学】 第2回定期考査(～28日)
19日 【中学】 考査時間割発表	【高校】 振替休日
【高校】 生徒会役員選挙	28日 【中高】 容儀検査
24日 【高校】 第2回定期考査(～28日)	29日 【高校】 第1回オープンスクール